１９８３(昭和５８)年度事業 報告書

(財) 滋賀県水産振興協会

１９９９年3月

1　放流事業

’83(昭和 58) 年度は協会の初年度でもあり、ニゴロブナ、ホンモロコの増殖技術についての試験研究を水産試験場に委託した。今年度の報告の生産放流に関する部分は「昭和 58 年度 温水魚資源対策試験調査受託事業の実績報告書」をもとに作成した。

また、温水魚資源対策について検討委員会を開催し、「ヨシ地、水草帯の保全」「産卵繁殖場の造成」「種苗の量産放流」が必要であるとの提言が出された。

1.1　ニゴロブナ

1.1.1　親魚養成

表 1 に結果を示した。

表 1: ニゴロブナ親魚養成結果

年級	飼育水槽	飼育期間		収容		取上		歩留り	備考
		収容日	取上日	尾数	重量	尾数	重量		
	(m^2)			(尾)	(Kg)	(尾)	(Kg)	(%)	
0^+	1,620	’83/ 7/27	’83/10/ 4	87,100	81.4	84,500	341.0	97	*1
〃	4	’83/ 8/ 8	’83/ 9/19	1,000	0.5	900	2.3	90	*2
合計	1,624			88,100	81.9	85,400	343.3	97	

*1 $100m^2\times$ 2 面、$40m^2\times$4 面、$1{,}260m^2\times$ 1 面
*2 $1.0m^2\times$ 4 面

1.1.2　採卵、ふ化

表 2 に結果を示した。

ニゴロブナはキンランを水槽に浮かしておくと、キンランに卵を産み付ける。卵の付いたキンランを流水式ふ化水槽にいれてふ化させ、流れる出るふ化仔魚をネットで受け採集した。一部、ホルモン処理を施し採卵した。この他にも、天然魚を購入し採卵を試みたが、採卵することができなかった。

1.1.3　種苗生産

水産試験場の陸上水槽で全長 24.5mm、724 千尾を生産した。餌料培養が不調で、十分に給餌することができなかった。また、初期の餌料が十分

表 2: ニゴロブナふ化仔魚生産結果

区分	飼育水槽	親魚		ふ化仔魚	♀1尾あたりの	備考
		尾数 (尾)	重量 (Kg)	生産尾数 (千尾)	ふ化仔魚数 (尾)	
養成魚	−	−	39.0	−	−	水試所有魚
天然魚	−	−	110.0	−	−	荒目エリで漁獲
合計		1,611	149.0	2,968	3,685	*1

*1 オス 906 尾、67kg、メス 705 尾、87kg

表 3: ニゴロブナ種苗生産結果

	飼育水槽	飼育期間 (平均飼育日数)	収容 尾数 (千尾)	取上 尾数 (千尾)	取上 全長 (mm)	歩留 (%)
1	$199m^2 \times 1.0m \times 1$ 面	62	748	184	25.9	25
2	$100m^2 \times 1.0m \times 2$ 面	53	633	258	26.4	41
3	$40m^2 \times 1.0m \times 4$ 面	44	1,090	168	23.7	15
4	$15m^2 \times 0.5m \times 2$ 面	55	126	19	25.6	15
5	$3m^2 \times 0.8m \times 4$ 面	55	260	41	22.3	16
6	$1.6m^2 \times 0.7m \times 5$ 面	37	58	54	15.0	93
合計	589 トン	48	2,915	724	24.5	25

に与えられなかったためか 7〜20 日目の斃死が多かった。餌料の不足から共食いも見られた。

1.1.4 放流

’83(昭和 58) 年 7 月から 8 月にかけて、延べ 6 回にわたって、稚魚の放流を実施し、その放流量は、589 千尾、131Kg で放流体型は 0.22 g であった。

表 4: ニゴロブナ放流結果

区分	放流日	放流場所	放流尾数 (尾)	放流量 (Kg)
第 1 回放流	'83/ 7/11	びわ町川道水路	94,470	21.720
第 2 回放流	'83/ 7/18	近江八幡牧地先	152,048	35.020
第 3 回放流	'83/ 7/21	安曇川町三和地先	79,271	21.780
第 4 回放流	'83/ 7/28	大津市堅田地先	118,114	17.119
第 5 回放流	'83/ 8/ 2	新旭町外浜地先	133,818	33.500
第 6 回放流	'83/ 8/26	西浅井町大浦地先	11,089	1.500
合計			588,810	130.639

表 5: ホンモロコ親魚養成結果

年級	飼育水槽	飼育期間		収容		取上		歩留り	備考
		収容日	取上日	尾数	重量	尾数	重量		
	(m^2)			(尾)	(Kg)	(尾)	(Kg)	(%)	
0^+	142*1	'83/ 7/25	'84/ 4/19	323,889	70.0	74,800	166.4	23.1	

*1 26 トン ($40m^2$) × 5 面、1.4 トン× 3 面、1.0 トン× 5 面、0.5 トン× 5 面、0.07 トン× 6 面

1.2 ホンモロコ

1.2.1 親魚養成

表 5 に結果を示した。

1.2.2 採卵、ふ化

流水中でふ化させ、流れる仔魚をネットで受け採集した。一部、守山市赤の井地先にて藻玉で採集された藻玉卵[1]を使用した。

1.2.3 種苗生産

水産試験場の陸上池を使用し、推定全長 23.5mm、568 千尾の稚魚を生産した。餌料培養が不調で、十分に給餌することができなかった。また、藻玉卵を使用した区では、ナマズ、フナが混入し、歩留りが低かった。共食いが 12mm 以上サイズで見られた。

[1]琵琶湖で天然のホンモロコが藻に産みつけた卵。琵琶湖に藻を吊しておきそこに産卵に寄ってくるホンモロコを漁獲するという漁法の名前が藻玉である。今、この漁法は行われていない。

表 6: ホンモロコふ化仔魚生産結果

区分	飼育水槽	親魚		ふ化仔魚	♀1尾あたりの	備考
		尾数 (尾)	重量 (Kg)	生産尾数 (千尾)	ふ化仔魚数 (尾)	
養成魚	—	9,500	—	3,170	667	水試所有魚
天然魚	—	—	—	5,025	—	藻玉卵
合計	—	—	—	8,195	—	

表 7: ホンモロコ種苗生産結果

	飼育水槽	飼育期間 (平均飼育日数)	収容 尾数 (千尾)	取上 尾数 (千尾)	取上 全長 (mm)	歩留 (%)	備考
1	$100m^2$×1.0m×2 面	57	1,415	127	23.7	9	
2	$43m^2$×1.0m×2 面	77	2,224	4	—	0	
3	$40m^2$×1.0m×1 面	45	976	24	23.8	2	
4	$1.4m^2$×0.7m×5 面	53	450	18	22.1	4	
5	$40m^2$×1.0m×4 面	55	1,429	277	23.5	19	
6	$8m^2$×1.0m×1 面	67	817	8	—	1	
7	小型各種	40	525	110	—	21	
合計	$501m^{2*1}$	58^{*1}	7,836	568	23.5	7	平均全長は推定

* No.1〜4 は藻玉卵、No.5〜7 は養成親魚から得た卵を使用
* No.7 の飼育は総水量 5.4 トン、11 面
*1 小型各種を除く

1.2.4　放流

’83(昭和 58) 年)8 月 26 日、西浅井町大浦地先に、ホンモロコ稚魚 14.4 千尾、48.3kg(3.4g/尾) を放流した。

2　その他

2.1　委託

2.1.1　温水魚資源対策試験調査受託事業

将来予想される、湖水位の低下等による温水魚の大幅な減産に対処するため、温水魚の種苗生産放流の改善、拡充を図ることを目処に、健全な種苗の量産技術、食害魚の対策を含めた放流効果を高める技術および経済効果に関する調査研究を、県水産試験場に委託し、昭和 59 年 4 月に「昭和 58 年度 温水魚資源対策試験調査受託事業の実績報告書」を受けた。

2.2　研修

2.2.1　現地研修

今後の本協会の事業推進に資するため、栽培漁業と公益法人とのかかわり及び運営状況について、次の県を実地調査した。

(財) 福島県栽培漁業協会および同県栽培漁業センター
日時　　昭和 58 年 10 月 27 日〜28 日
場所　　同県双葉郡大熊町大字夫沢字北台
派遣人数　理事長、理事、評議員、協会職員等、7 名

(財) 鳥取県栽培漁業協会および同県栽培漁業センター
日時　　昭和 58 年 11 月 10 日〜11 日
場所　　同県東伯郡泊村大字石脇
派遣人数　理事、監事、評議員、協会職員等、9 名

高知県栽培漁業センターおよび高知大学
日時　　昭和 59 年 1 月 30 日〜2 月 1 日
場所　　同県須崎市浦の内灰方
派遣人数　協会職員、1 名

2.2.2　技術研修

将来の協会事業の運営に備えるため、職員を県水産試験場に派遣し、温水魚の増殖技術の実務について技術者研修を実施した。

場所　　滋賀県水産試験場
期間　　昭和 58 年 4 月 1 日～昭和 59 年 3 月 31 日
派遣人数　2 名

また、次の研修会に協会職員を参加させた。

全振協主催　現地講習会 (石川県七尾市)
同　　沿整事業技術者育成研修会 (東京都)
水産庁主催　特定研究開発促進事業「初期餌料の培養技術向上に関する研究」中間報告会 (三重県)

2.3　各種検討会

2.3.1　温水魚資源対策基本構想検討委員会

湖水位の低下や、漁場環境の悪化等に対応する今後の温水魚の資源対策について、その基本的な方向を検討するため、関係者による「温水魚資源対策基本構想検討委員会」を設置し、委員会 3 回、幹事会 6 回を開催して、温水魚とそれを取り巻く漁場環境の現状およびその対応について審議等を行い、この結果、昭和 59 年 3 月 15 日に委員会から協会理事長に対し、「温水魚資源対策基本構想についての提言書」が提出された。委員会の実施状況は以下の通りである。

委員会委員構成　学識経験者、県職員、漁連役員、協会役員等、8 名
幹事会幹事構成　県職員、漁連職員等、7 名

会議名	回	開催日	場所	協議事項
委員会	第 1 回	’83/10/6〜7	水試	本県の水産業および琵琶湖総合開発の概要 産卵繁殖場の現状 温水魚増殖事業の実施状況 温水魚増殖試験研究の現況 小規模増殖場等現地調査
	第 2 回	’83/11/28〜29	水試	漁場環境の変化と温水魚への対応 各種増殖方式の総合的検討
	第 3 回	’84/2/22〜23	水産会館	第 1 回、第 2 回委員会議の審議結果のまとめ等 温水魚資源対策基本構想の提言
幹事会	第 1 回	’83/9/13	鳰浜荘	委員会議提出資料の検討、作成 委員会議協議結果の取りまとめ 委員会議運営計画の打ち合わせ
	第 2 回	’83/10/1	水試	同上
	第 3 回	’83/10/18	水試	同上
	第 4 回	’83/11/18	水産会館	同上
	第 5 回	’83/12/15	水試	同上
	第 6 回	’83/2/8	水産会館	同上

2.4 普及事業

2.4.1 湖国農林水産まつり

県内の農林水産業の発展と普及を願い「湖国農林水産まつり」が開催された。協会も各水産団体と共にこれに参画し、つくり育てる漁業をアピールした。

開催日　昭和 58 年 10 月 16 日〜17 日
場所　　琵琶湖文化館周辺

2.5 その他

2.5.1 漁業経営近代化に関する意向調査

琵琶湖の現状、漁業経営上の問題点と改善策、水産資源の増殖方法等について、漁業者や漁業団体の考え方、意見等を把握し、今後の協会事業の推進に資するため意向調査を行った。

調査対象　漁業者 641 名（正組合員の 30 %）および 42 沿湖漁業協同組合
調査方法　アンケート調査